

報道関係者 各位

令和3年3月16日

【照会先】

医政局医事課試験免許室

試験専門官 大坪 真実(内線 2578)

国家試験係長 安達 亘(内線 2573)

(代表電話) 03(5253)1111

### 第114回歯科医師国家試験の合格発表について

令和3年1月30日(土)及び31日(日)に東京都他7カ所において実施した第114回歯科医師国家試験の合格者を発表しました。今回の歯科医師国家試験の合格者数等は次のとおりです。

#### 記

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,615人	2,103人	1,687人	80.2%
全体	3,852人	3,284人	2,123人	64.6%



## 第114回歯科医師国家試験の合格基準

第114回歯科医師国家試験の合格基準は、

一般問題（必修問題を含む）を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、

- |   |            |             |
|---|------------|-------------|
| ① | 領域A（総論）    | 53点以上／100点  |
| ② | 領域B（各論Ⅰ～Ⅱ） | 107点以上／167点 |
| ③ | 領域C（各論Ⅲ～Ⅴ） | 129点以上／206点 |
| ④ | 必修問題       | 63点以上／78点   |

但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にあつては、  
必修問題の得点について総点数の80%以上とする。

とする。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 4 問

4 一次性咬合性外傷にみられるのはどれか。1つ選べ。

- a 歯肉退縮
- b 歯槽骨吸収
- c 歯周ポケット
- d アプフラクション
- e アタッチメントロス

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 5 問

5 コラーゲンの三本鎖らせん構造を安定させるのはどれか。1つ選べ。

- a リシン
- b アラニン
- c グリシン
- d プロリン
- e グルタミン

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 10 問

10 舌の分界溝に開口するのはどれか。1つ選べ。

- a 脂 腺
- b 後舌腺
- c Ebner 腺
- d アポクリン腺
- e Blandin-Nuhn 腺

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。
-------------

( 理 由 )

設問が不明確で、正解が得られないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

B 問題 第 10 問

10 解糖系が働く部位はどれか。1つ選べ。

- a ゴルジ装置
- b 細胞質基質
- c 粗面小胞体
- d リソソーム
- e ミトコンドリア

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 9 問

9 耐火模型上で製作するのはどれか。1つ選べ。

- a 陶材焼付冠
- b レジン前装冠
- c ジルコニアクラウン
- d レジンジャケットクラウン
- e ポーセレンラミネートベニア

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。



第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 11 問

11 歯周病の第一次予防はどれか。1つ選べ。

- a 永久固定
- b 歯周組織再生療法
- c ルートプレーニング
- d 不適合修復物の再治療
- e オクルーザルスプリントの装着

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 14 問

14 放射線検査において診断参考レベルを設定する目的はどれか。1つ選べ。

- a 検査の正当化
- b 見読性の確保
- c 防護の最適化
- d 線量限度の適用
- e 医療情報の標準化

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 17 問

17 血管平滑筋を収縮させるのはどれか。1つ選べ。

- a コリンエステラーゼ
- b アデニル酸シクラーゼ
- c ミオシン軽鎖キナーゼ
- d プロテインキナーゼ A
- e アルカリホスファターゼ

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 89 問

89 嚢胞腔内に角化物を含むのはどれか。1つ選べ。

- a 鼻歯槽嚢胞
- b 甲状舌管嚢胞
- c 鼻口蓋管嚢胞
- d 乳児の歯肉嚢胞
- e リンパ上皮性嚢胞

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

複数の正解があるため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 2 問

2 母乳栄養で欠乏のリスクがあるのはどれか。1つ選べ。

- a ビタミンA
- b ビタミンC
- c ビタミンD
- d ビタミンE
- e ビタミンK

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。
-------------

( 理 由 )

選択肢が不適切であるため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 7 問

7 (        ), the study of the distribution and determinants of health-related states and events in specified populations, is a potent scientific tool to confront a new infectious disease.

(        )に入るのはどれか。1つ選べ。

- a Anatomy
- b Biochemistry
- c Epidemiology
- d Pharmacology
- e Physiology

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 8 問

8 トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉で実施されるのはどれか。1つ選べ。

- a がん検診
- b 健康測定
- c 一般健康診断
- d 特殊健康診断
- e 雇入時健康診断

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 16 問

16 催奇形性があるのはどれか。1つ選べ。

- a 水 痘
- b 手足口病
- c 口腔カンジダ症
- d ヘルパンギーナ
- e トキソプラズマ症

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

複数の正解があるため。



第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 17 問

17 歯科治療中の幼児が口腔内に落下した異物により呼吸困難に陥った。異物の除去を行おうとしたところ、脈拍数 30/分となり意識が消失した。

直ちに行うのはどれか。1つ選べ。

- a 気管挿管
- b 胸骨圧迫
- c 静脈路確保
- d 背部叩打法
- e 腹部突き上げ法

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 19 問

19 放射線治療における晩期反応組織はどれか。1つ選べ。

- a 骨 髄
- b 脊 髄
- c 粘 膜
- d 皮 膚
- e 生殖腺

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 44 問

44 全部床義歯の間接法によるリラインに適した印象材はどれか。2つ選べ。

- a 印象用ワックス
- b アルジネート印象材
- c ダイナミック印象材
- d 付加型シリコーンゴム印象材
- e インプレッションコンパウンド

( 採点上の取り扱い )

3通りの解答を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

3つの選択肢が正解であるため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 62 問

62 60歳の男性。上顎右側前歯部ブリッジ前装部の脱離による審美不良を主訴として来院した。5年前に装着し、問題なく使用していたが、昨夜の食事中に脱離したという。診察の結果、ブリッジ前装部は適合に問題がないため、これを利用して修理することとした。初診時の口腔内写真(別冊No. 20A)と前装部の写真(別冊No. 20B)を別に示す。

修理に際して処置に必要なのはどれか。2つ選べ。

- a EDTA
- b HEMA
- c  $\gamma$ -MPTS
- d 4-META
- e VBATDT

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。

( 理 由 )

設問の状況説明が不適切で正解が得られないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 64 問

**64** 晩発性先天性梅毒にみられるのはどれか。3つ選べ。

- a 高口蓋
- b バラ疹
- c 内耳性難聴
- d Fournier 菌
- e 虹彩毛様体炎

( 採点上の取り扱い )

4通りの解答を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

4つの選択肢が正解であるため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 66 問

66 インプラントの上部構造製作のための作業用模型の写真(別冊No. 22 A、 B)を別に示す。

A と比較した B の特徴はどれか。3つ選べ。

- a 審美性に優れる。
- b 歯肉形態を修正しやすい。
- c 装着にセメントが不要である。
- d メンテナンスが容易である。
- e インプラント体間の平行性を問わない。

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。
-------------

( 理 由 )

設問の状況設定が不十分で正解が得られないため。

第114回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 77 問

77 65歳の女性。下顎左側第二小白歯と第一大臼歯の欠損による咀嚼困難を主訴として来院した。診察の結果、ブリッジによる補綴治療を行うこととした。陶材築盛前のブリッジの写真(別冊No. 26A)とこの状態で口腔内に試適した際の口腔内写真(別冊No. 26B)を別に示す。

口腔内試適時に行うのはどれか。2つ選べ。

- a 咬合調整
- b 内面の適合調整
- c 隣接接触関係の調整
- d ろう付け間隙の調整
- e 支台歯間の平行性調整

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。

( 理 由 )

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

## 歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第105回	平成24年2月4～5日	3,326 ( 2,311 )	2,364 ( 1,882 )	71.1 ( 81.4 )
第106回	平成25年2月2～3日	3,321 ( 2,373 )	2,366 ( 1,907 )	71.2 ( 80.4 )
第107回	平成26年2月1～2日	3,200 ( 2,241 )	2,025 ( 1,642 )	63.3 ( 73.3 )
第108回	平成27年1月31日～2月1日	3,138 ( 1,995 )	2,003 ( 1,457 )	63.8 ( 73.0 )
第109回	平成28年1月30～31日	3,103 ( 1,969 )	1,973 ( 1,436 )	63.6 ( 72.9 )
第110回	平成29年2月4～5日	3,049 ( 1,855 )	1,983 ( 1,426 )	65.0 ( 76.9 )
第111回	平成30年2月3～4日	3,159 ( 1,932 )	2,039 ( 1,505 )	64.5 ( 77.9 )
第112回	平成31年2月2～3日	3,232 ( 2,000 )	2,059 ( 1,587 )	63.7 ( 79.4 )
第113回	令和2年2月1～2日	3,211 ( 1,995 )	2,107 ( 1,583 )	65.6 ( 79.3 )
第114回	令和3年1月30～31日	3,284 ( 2,103 )	2,123 ( 1,687 )	64.6 ( 80.2 )

※( )内は新卒者を示す



## 歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

回数		総数	男性	女性	男女別合格率(%)	
					男性	女性
第110回 (平成29年)	受験者数(人)	3,049	1,952	1,097	61.7	71.0
	男女比(%)		(64.0)	(36.0)		
	合格者数(人)	1,983	1,204	779		
	男女比(%)		(60.7)	(39.3)		
第111回 (平成30年)	受験者数(人)	3,159	1,924	1,235	60.4	71.0
	男女比(%)		(60.9)	(39.1)		
	合格者数(人)	2,039	1,162	877		
	男女比(%)		(57.0)	(43.0)		
第112回 (平成31年)	受験者数(人)	3,232	1,971	1,261	60.0	69.5
	男女比(%)		(61.0)	(39.0)		
	合格者数(人)	2,059	1,183	876		
	男女比(%)		(57.5)	(42.5)		
第113回 (令和2年)	受験者数(人)	3,211	1,949	1,262	62.3	70.7
	男女比(%)		(60.7)	(39.3)		
	合格者数(人)	2,107	1,215	892		
	男女比(%)		(57.7)	(42.3)		
第114回 (令和3年)	受験者数(人)	3,284	1,928	1,356	61.1	69.7
	男女比(%)		(58.7)	(41.3)		
	合格者数(人)	2,123	1,178	945		
	男女比(%)		(55.5)	(44.5)		

第114回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数(人)	構成比(%)	合格者数(人)	合格率(%)
新卒	令和2年4月～ 令和3年3月	1回	2103	64.0	1687	80.2
既卒	平成31年4月～ 令和2年3月	2回	539	16.4	301	55.8
	平成30年4月～ 平成31年3月	3回	193	5.9	64	33.2
	平成29年4月～ 平成30年3月	4回	128	3.9	28	21.9
	平成28年4月～ 平成29年3月	5回	105	3.2	23	21.9
	平成27年4月～ 平成28年3月	6回	70	2.1	7	10
	平成26年4月～ 平成27年3月	7回	31	0.9	5	16.1
	平成25年4月～ 平成26年3月	8回	22	0.7	2	9.1
	平成24年4月～ 平成25年3月	9回	9	0.3	3	33.3
	平成24年3月以前	10回以上	84	2.6	3	3.6
	計			1,181	36.0	436
総計			3,284	100	2123	64.6